



2018年
12月

中国四国農政局
高知県拠点

人を愛し、大地を愛す、地の酒づくり

四万十町

高知県の西部に位置する四万十町大正地区で、明治26年創業、125年の歴史のある、(株)無手無冠番頭の福永さんに話を聞きました。

こだわりの「地の酒づくり」

無手無冠の歴史は、恵みある四万十川との歩み。「冠におぼれず、飾らず、素朴な心を大切に、ひたすら自然を生かした地の酒造り」無手無冠の社名に込められた思いは、原料生産のこだわりにも生かされています。

日本酒においては、その原料となる米を4haの農地で自社栽培しています。その米は土佐和紙で水田を覆い、農薬を使わず、栗焼酎を製造した際に出る焼酎カスを肥料に使うことでの有機農法を用いるなど、細部にまで「四万十町産」にこだわった、原料からの酒づくりを行っています。

また、33年前から販売開始した栗焼酎「ダバダ火振」は、四万十町大正地区の名産である「しまんと栗」を中心に使っており、現在、全国の栗焼酎の約5割のシェアを誇る無手無冠の主力商品となっています。



(番頭と清酒「無手無冠」)



(栗焼酎「ダバダ火振」)

清酒の輸出

こだわりの原料で作った清酒の約5割は、海外(主にヨーロッパ)へ輸出され、近年ではオランダの法人からの注文が多く、「個性」を好む海外のファンに、無手無冠のこだわりと味は高く評価されています。

様々な取り組み

- 『四万十川焼酎銀行』 元銀行の建物を利用した焼酎商品の展示館
- 『四万十リキュール』 四万十川流域で採れたゆずや芋などをリキュールに加工
- 『スイーツ』 栗焼酎「ダバダ火振」と菓子メーカーがコラボ、酒の味と香りにこだわって、大人のお菓子として人気があります。

地域振興

毎年「四万十川自然郷 米作り酒造り体験教室」として「田植え、草取り、稲刈り、麴作り・仕込み、しぼり・瓶詰め」の各段階ごとにイベントを開催しています。それぞれのイベントには、全国各地からファンの方々が、お酒や焼酎はもちろん、四万十川の特産品を楽しみに参加されます。特に夏の鮎を囲む「無手無冠河原パーティ」の際には、多くの来客で町全体が賑わいます。



(体験教室 田植え作業)



(雪の四万十川)

これからの目標

「100年以上お世話になった四万十川や、地域の皆様に恩返しするためにも、流域の環境保全や地域振興を地道に取り組んでいきます。」と、福永さんは語ってくれました。

(株)無手無冠

TEL: 0880-27-0316

<https://www.facebook.com/mutemuka/>

写真提供:(株)無手無冠

「ドローン体験講習会」を開催しました！

中国四国農政局高知県拠点、平成30年11月21日、四国森林管理局と合同で「ドローン体験講習会」を開催しました。講習会には農業者を含む20名が参加しました。

座学で操作や活用方法を学ぶ

午前中の座学では、基本的なドローンの仕組みや操作説明のほか、農業でのドローン活用事例の紹介や、ドローン飛行情報を用いたアプリによる高度な応用方法などを学習しました。

参加者は、単純な上空からの撮影だけでなく、高度、緯度経度、撮影画像を用いて、高低差表示や作物の生育状況などの詳細なマップが作成できることに関心を示していました。



座学の様子



ドローン本体とプロポの説明

ドローンの操作体験

午後からは森林総合研究所の敷地内で、実機を使って操作を体験しました。

離陸時や着陸時の注意点をしっかりと確認した後に、タブレット端末と連携した、ドローン进行操作するための「プロポ」を使って、実際にドローンを操縦しました。

操作スティックから手を離しても、ドローンはその場でホバリングするため、初めての方でも難く操作ができました。

参加者全員がドローンを実際に飛行させ、スピードの速さや想像以上の高度飛行、上空からの撮影を体験しました。また、画面上のマップで軌道をプログラムし、自動飛行による空撮の実演も行い、短時間で広域な撮影や計測が行えることを学びました。



ドローン飛行体験



参加者がドローンで撮影した講習会の様子

編集：中国四国農政局 高知県拠点

〒780-0870 高知市本町4丁目3-41 高知地方合同庁舎

TEL(088)875-7236 FAX(088)872-7531 <農政局HP> <http://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>